



東日本の大震災と津波、大変なことが起こってしまいました。今（三月十八日）、関係者の必死の努力のおかげで小康状態にある福島原発も他ではありません。

直接、渦中にある方がたは、本当に表現しきれない状況の中で、日にちを積み重ねておられます。頭が下がります。

後先になってしまいましたが、このたびの大震災また津波によってお亡くなりになった方がたに衷心より哀悼の意を表します。また、ご家族の方がたに、心よりお悔やみを申し上げます。

地震と津波に家をもっていかれた方がた、原発事故で避難を余儀なくされている方がた、今、日本中の人が、被災されたみなさんに対して、「自分にも何かできないか」という思いでいます。みんな、みなさんの居場所を回復し、そして、私たちの日本を建て直さなくてはなりません。

悪いことがあると、すぐ、悪い因縁のせいだとか天罰だとかと出すが、日本には昔からいたし、今でもいるようです。残念なことです。仏教に照らした時、もちろんこれは間違った考えです。

大乘仏教の説いてきた「菩薩行」とは、一言で言えば、人間に生きる力を与える教えです。この大前提に反する仏教理解は、基本的に間違いなのです。

私たち「在家仏教こころの会」は新しい「仏教」です。一緒に生きている人びとと、助け合い協力し合って明日をつくる、これが仏の教えを在家で生かすモットーです。その原動力は、「一緒に生きているのだ」という思いの響き合う力です。

なにも私たちの会の専売特許だなどという話ではありません。反対に、今、テレビを通して伝えられる現地の方がたの声や姿には、すべてにわたって教えられることが数多くある。その根本にあるのは、人間に共通の、必死に生きようとする姿勢の尊厳です。

そこに学びつつ、私たちも「共に生きる」道を歩みます。

# 「共に生きる」道を歩む